

農推第1149-2号
令和元年5月17日

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病害虫発生・防除情報メールサービス（5月）

大阪府内の5月の病害虫発生状況と今後1か月の防除対策についてお知らせします。

気温の上昇に伴い、シロイチモジヨトウやオオタバコガ、アザミウマ類の発生が増えています。
高温時の薬剤散布は薬害が出やすいので注意しましょう。

- 各病害虫の発生状況は、巡回調査や植物防疫協力員の報告等をもとに作成しています。
- 各病害虫の詳細や、農薬を使用しない防除方法等は、下記ホームページの「防除指針」を参照してください。

◎ 「病害虫防除グループホームページ」 <http://www.jppn.ne.jp/osaka/>◎ 「防除指針」 <http://www.jppn.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>▲病害虫防除グループ
ホームページ

▲防除指針

目次

| | |
|---|--------|
| 1 水稲 | P. 1 |
| 2 果樹(ぶどう、いちじく、温州みかん、もも、バラ科果樹(もも、すもも、うめ等)) | P. 2～4 |
| 3 野菜(なす、トマト・ミニトマト、たまねぎ) | P. 5～9 |
| 4 野菜類・花き類全般 | P. 10 |
| 5 きく | P. 11 |

水稲

スクミリングガイ（ジャンボタニシ）



防除のポイント

- ◆ピンク色の卵塊を発見した場合は、水中に掻き落とす。
- ◆水深4cm以下では自由に移動できないので、田植え後の浅水管理が有効である。
- ◆田植直後にスクミンペイト3、スクミノン、ジャンボたにしくんなどを散布して、食害を防止する。
注)スクミノン、ジャンボたにしくん使用後は7日間湛水状態にし、かけ流しや落水はしない。

イネもみ枯細菌病（苗腐敗症）



穂の被害



玄米の症状 ※

防除のポイント

- ◆特に出芽時の温度が高い場合に発病しやすいので、30度以下になるよう育苗時の温度管理に注意する。

いもち病



防除のポイント

- ◆補植用の苗が発生源になることが多いので、早めに処分する。
- ◆発生が予想される場合は、ビームプリンス粒剤やバイゲットフェルテラチェスL粒剤、ツインターボフェルテラ箱粒剤などの箱施用剤を処理する。

縞葉枯病



ヒメトビウンカ（雌成虫）※

特徴

- ◆縞葉枯病は、ヒメトビウンカにより媒介される。

防除のポイント

- ◆育苗ほかにヒメトビウンカが飛来しないように、周辺のイネ科雑草を除草する。

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
(<http://www.jpnpn.ne.jp/osaka/>)

●農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

果樹

5月前半の病害虫発生状況

| 品目 | 程度 | 少ない | やや少ない | 平年並 | やや多い | 多い |
|-------|------------------|-----|-------|---------|--------|----|
| ぶどう | | | | 灰色かび病 | | |
| | | | | べと病 | | |
| いちじく | | | | アザミウマ類 | | |
| みかん | | | | そうか病 | | |
| もも | | | | | せん孔細菌病 | |
| | | | | カイガラムシ類 | | |
| バラ科果樹 | クビアカツヤカミキリ 発生に注意 | | | | | |

ぶどう

灰色かび病



特徴

- ◆多湿条件で発生が多くなる。
- ◆孢子(分生孢子)が風などによって飛散し、傷口などから感染する。

防除のポイント

- ◆適切に換気を行い、湿度を下げるようにする。
- ◆花がらが発生源となることが多いので、開花後に花がらを取り除く。
- ◆発生を認めたら、フルーツセイバー、オンリーワンフロアブル、ピクシオDF等を散布する。

べと病



特徴

- ◆雨が多いと発生しやすいので、梅雨など雨が長くともん延しやすい。

防除のポイント

- ◆露地の多発ほ場では梅雨の晴れ間の予防が重要
- ◆予防的にICボルドー66D、ICボルドー48Q、レーバスフロアブルなどを散布する。
- ◆農薬を散布する際は、薬害や果実の汚れを避けるため、傘・袋かけ後は棚上散布を行う。
- ◆多発して落葉すると樹勢が低下し、次年度にも影響するので、収穫が終わった園もしっかり防除する。

いちじく

アザミウマ類



被害果実

特徴

- ◆果実内に侵入し食害する。

防除のポイント

- ◆園地周辺の除草を行う。
- ◆5月下旬～6月上旬頃にディアナWDG、スピノエース顆粒水和剤などを散布する。

温州みかん

そうか病



特徴

- ◆雨が続くと発生が多くなる。
- ◆若い樹に発生が多い。

防除のポイント

- ◆排水、通風を良好にする。
- ◆発生が見込まれる時期に、トップジンM水和剤、ストロビードライフロアブルなどを散布する。

もも

せん孔細菌病



特徴

- ◆葉の傷口や気孔から病原菌が侵入して感染する。病原菌は雨風により分散して、感染拡大する。

防除のポイント

- ◆風当たりの強いほ場では防風ネットを設置する。
- ◆チオノックフロアブル、マイコシールドなどの登録薬剤を10日間隔で散布する。
- ◆気象情報に注意し、雨風が強まる前に予防的に薬剤散布をすると効果的である。

注意

収穫時期の早い品種に農薬散布する場合は、散布農薬の収穫前日数に十分注意しましょう。

バラ科果樹（もも、すもも、うめ等）

クビアカツヤカミキリ



成虫

幼虫



うどん状フラス



中華麺状フラス

特徴

- ◆成虫は体長4cm程度。前胸部は明赤色で、全体は光沢ある黒色。成虫は6～8月頃に出現。
- ◆幼虫は樹木内部を食い荒らし、枯死させる。3月下旬から中華麺～うどん状のフラス（木くず等の混合物）を出す。
- ◆うどん状のフラスがある穴には幼虫がいる可能性が高い。
- ◆若齢幼虫はうどんよりも細い（中華麺状）フラスを出すことがあり、この時期の防除が効果的。



被害枝



ネット被覆(さくら)

防除のポイント

- ◆フラスが見られた樹は、ネットを巻き付けるなど成虫の拡散を防ぐ対策をとる。ネットは4mm目合いのものを、高さ2m程度まで2重に口をしっかりと巻く。ネットを樹幹に密着させると成虫がネットを噛み切ることがあるので、樹幹との間に余裕を持たせる。
- ◆ネット内での交尾・産卵を防ぐため、定期的にネット内を確認し、成虫を見つけしだいハンマーなどで撲殺する。
- ◆伐採後の切り株についても、ネットやビニルシート等で2重に覆い、成虫が拡散することを防ぐ。
- ◆フラスを見つけたら、千枚通しや針金等を穴に入れ、中のフラスをかき出してからロビンフッド、ベニカカミキリムシエアゾールを注入するか、幼虫を突き刺して殺虫する。

5月7日付で防除情報「クビアカツヤカミキリに注意！！」を発表しました。
詳細はホームページを参照して下さい。 <http://www.jpnpn.ne.jp/osaka/>



野菜

5月前半の病害虫発生状況

| 品目 | 程度 | 発生状況 | | | |
|---------------------|----|------|-----------------|-----|---------|
| | | 少ない | やや少ない | 平年並 | やや多い |
| なす | | | アザミウマ類 | | |
| | | | すすかび病・灰色かび病 | | |
| | | | うどんこ病 | | |
| | | | アブラムシ類 | | |
| | | | ハダニ類 | | |
| トマト・ミニトマト (施設栽培) | | | | | コナジラミ類 |
| | | | トマト黄化葉巻病(TYLCV) | | |
| | | | すすかび病・ 葉かび病 | | |
| | | | うどんこ病 | | |
| たまねぎ | | | べと病 | | |
| | | | 白色疫病 | | |
| | | | | | ネギアザミウマ |

なす

アザミウマ類



ミナミキイロアザミウマ成虫※

特徴

- ◆ 苗からの持ち込みによる発生が多く見られる。

防除のポイント

- ◆ 発生が見られたら、ディアナSC、プレオフロアブル、モベントフロアブルを散布する。
- ◆ 施設開口部に目合い0.8mmの赤色ネットを展張し、侵入を防止する。

すすかび病 ・ 灰色かび病



すすかび病

防除のポイント

- ◆ 適度に換気を行い、湿度を下げる。
- ◆ 発生を認めたら スコア顆粒水和剤(すすかび病)、カンタスドライフロアブル(すすかび病、灰色かび病)を散布する。

※原図：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所
*原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)

なす

うどんこ病



特徴

- ◆窒素過多で曇天が続くと発生する。

防除のポイント

- ◆発生が見られたら、パンチョTF顆粒水和剤、プロパティフロアブル、スコア顆粒水和剤を散布する。

アブラムシ類



アブラムシ類 ※

特徴

- ◆作物を吸汁し、生長を阻害する。また、排泄物にカビが発生し、すす病の原因となる。さらに、ウイルスを媒介し、特に水なすの露地栽培でウイルス病が発生しやすい。

防除のポイント

- ◆発生が見られたら、スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤、モスピラン顆粒水溶剤、ウララDFを散布する。

ハダニ類



被害葉※

特徴

- ◆葉の汁が吸われ、その部分は点状に白く抜ける。多発すると葉が全体に白っぽくなったり、部分的に黄色くなったりする。高温・乾燥を好む。

防除のポイント

- ◆発生が見られたら、バロックフロアブル、マイトコーネフロアブル、ダニトロンフロアブルを散布する。

トマト・ミニトマト（施設栽培）

コナジラミ類・トマト黄化葉巻病(TYLCV)



トマト黄化葉巻病発症株

タバココナジラミ
※

特徴

- ◆ トマト黄化葉巻病は、コナジラミ類により病原ウイルス（TYLCV）が媒介される。

防除のポイント

- ◆ 感染すると株ごと除去する以外に対策がないので、コナジラミ類の防除を徹底する。
- ◆ 感染株からの二次伝染を防ぐため、除去した株はビニル袋等に密閉して完全に枯死させる。
- ◆ ほ場周辺の雑草、特に野良生えトマトの除去を徹底する。
- ◆ 施設開口部に目合い0.4mmのネットを展張する。
- ◆ コナジラミ類の防除には、ベストガード水溶剤、スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤などを散布する。

すすかび病・葉かび病



被害葉※

特徴

- ◆ 日照不足で樹勢が落ちると発生しやすい。
- ◆ ハウスなどの多湿な環境で発生しやすく、晩秋から早春に多い。

《すすかび病》

- ◆ 近年増加傾向にある。葉かび病より、かびが黒く見えるが、見分けることは困難。葉かび病抵抗性品種で症状が見られる場合は、すすかび病を疑う。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、トリフミン水和剤、スコア顆粒水和剤（トマトのみ）などを散布する。

うどんこ病



特徴

- ◆ 窒素過多で曇天が続くと発生する。

防除のポイント

- ◆ 発生が見られたら、パンチョTF顆粒水和剤、アフェットフロアブル、トリフミン乳剤を散布する。

トマト・ミニトマト（施設栽培）

灰色かび病



特徴

- ◆低温多湿時に発生が多い。花がらや果実のがくから発生し、果実に被害が発生する。

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、ロブルール水和剤やアフエットフロアブルなどを散布する。

たまねぎ

ネギアザミウマ



ネギアザミウマ ※

特徴

- ◆薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤を連用を避け、ローテーション散布する。

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、ディアナSC、モスピラン顆粒水溶剤、リーフガード顆粒水和剤を散布する。

注意

散布農薬の収穫前日数に十分注意しましょう。
現在、たまねぎほ場で多発しており、たまねぎ収穫後、近隣の他の作物（なす、ねぎ、いちじく等）を加害する可能性がある。
たまねぎほ場の近隣ほ場は、こまめに発生確認し、多発する前に防除を行う。



被害株 ※

たまねぎ

べと病



二次感染株



二次感染株(拡大)

特徴

◆ 苗床・定植後に、前作の作物残さなどから感染し、1～2月に越年罹病株として病徴を現す。

春期に発生する二次感染株は、気温が15℃前後で、雨や曇りの日が多いと増加する。特に、3月中下旬から5月上旬にかけて曇雨天が続くと、発生が多くなる。

防除のポイント

◆ 発生を認めたら、ベトファイター顆粒水和剤、メジャーフロアブル、プロポーズ顆粒水和剤、リドミルゴールドMZなどを散布する。

◆ 発病した株は感染源となるので、抜取る。抜き取った株は肥料袋などに集め、ほ場外へ持ち出した上で、適切に処分する。

注意

散布農薬の収穫前日数に十分注意しましょう。

【べと病・白色疫病】ジマンダイセン水和剤(5回)

【べと病のみ】ペンコゼブ水和剤(5回)

【べと病・白色疫病】リドミルゴールドMZ(3回)

上記薬剤は同一成分マンゼブを含む。
マンゼブの総使用回数は5回以内。

白色疫病



特徴

◆ 春が比較的温暖で雨が続くと発生しやすい。

防除のポイント

◆ 発生を認めたら、ベトファイター顆粒水和剤、ザンプロDMフロアブル、プロポーズ顆粒水和剤、リドミルゴールドMZなどを散布する。

注意

散布農薬の収穫前日数に十分注意しましょう。

【べと病・白色疫病】ジマンダイセン水和剤(5回)

【べと病のみ】ペンコゼブ水和剤(5回)

【べと病・白色疫病】リドミルゴールドMZ(3回)

上記薬剤は同一成分マンゼブを含む。
マンゼブの総使用回数は5回以内。

野菜類・花き類全般

※適用作物は一部を抜粋して記載しています。
使用にあたっては、ラベルの登録内容を確認してください。

5月前半の病害虫発生状況

| 品目 | 程度 | 少ない | やや少ない | 平年並 | やや多い | 多い |
|----------------|----|-----|-------|-----|------------|----|
| 野菜類 花き類(全般) | | | | | オオタバコガ | |
| | | | | | シロイチモンジヨトウ | |

オオタバコガ



なすの花に寄生するオオタバコガ幼虫

特徴

- ◆果実や茎などに食入し、食害痕のまわりに虫糞が確認されることが多い。

防除のポイント

- ◆食入孔の中にいるため薬剤がかかりにくく、さらに老齢幼虫には薬剤の効果が落ちるため、捕殺等も含めて早めに対応を行う。
- ◆発生を認めたら、プレオフロアブル（なす、トマト、ミニトマト、未成熟とうもろこし、花き類など）、アニキ乳剤（なす、トマト、ミニトマト、未成熟とうもろこし、きくなど）、デルフィン顆粒水和剤（野菜類など）などを散布する。

シロイチモンジヨトウ



特徴

- ◆ねぎでの発生が多いが、マメ類、なす科野菜、あぶらな科野菜、花き類など多くの作物を加害する。

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、アクセルフロアブル（ねぎ、きく）、ディアナSC（ねぎ）、アフーム乳剤（ねぎ、しゅんぎく、花き類など）、プレオフロアブル（ねぎなど）、デルフィン顆粒水和剤（野菜類など）などを散布する。

きく

白さび病



特徴

- ◆施設では春先と初冬に、露地では初夏～梅雨時と秋期に発病が多い。

防除のポイント

- ◆ハウスでは換気を良好にし、湿度を下げる。
- ◆被害葉は取り除き、ほ場外に持ち出して処分する。
- ◆ストロビーフロアブル等を散布し、予防に努める。
- ◆発生を認めたら、アフエットフロアブル、トリフミン乳剤等を散布する。

注) ストロビーフロアブルは高温多湿下では、薬害の恐れがあるので使用しない。
他剤との混用は薬害が生じる恐れがあるので注意する。

黒斑病、褐斑病



黒斑病*

特徴

- ◆雨滴によって感染が拡大するので、降雨前にしっかり防除する。

防除のポイント

- ◆被害葉は取り除き、ほ場外に持ち出して処分する。
- ◆ダコニール1000、ストロビーフロアブル等を散布して予防する。

注) ストロビーフロアブルは高温多湿下では薬害の恐れがあるので使用しない。
他剤との混用は薬害が生じる恐れがあるので注意する。